

お茶の文化を世界へ普及 (株式会社 西出製茶場)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地: 京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺
東奥谷59番地
- 代表者: 代表取締役 西出 孝
- 業種: 農産品・食品
- 資本金: 550万円
- 売上高: -
- 従業員数: 7名
- URL: <http://www.nishide.com/index.html>

①事業概要

<宇治茶の製造・販売>

株式会社西出製茶場は、宇治田原町にて江戸時代後期から140年以上にわたり、宇治茶の製造に関わる老舗である。企業情報、企業理念とともに、日本茶の商品毎の説明、茶葉の保存方法、飲み方などの情報を丁寧に紹介したWEBサイトを展開し、海外からの問い合わせにも対応している。

②海外展開概要

<北米等への販路開拓>

現在WEBページは、日本語のみの表示であるにもかかわらず、平成22年に同社のWEBサイトを見た北米で茶葉や茶器の店舗を展開するA社から、引き合いのメールを受けた事が、本格的な海外企業との取引のきっかけとなった。平成22年5月にA社社長が同社の茶畑や工場を訪問し、具体的な商談へと進み始める。海外の顧客のニーズを深く知り“日本のおいしい宇治茶を海外の方にも楽しんでもらいたい”との思いから、平成23年に実際にA社の本社・店舗を訪問し、同年6月にA社との取引の継続が実現した。海外の顧客ニーズに適した製品作りを念頭に、日本向けとは違った取組や商品の提供を心掛けている。



▲茶葉審査風景

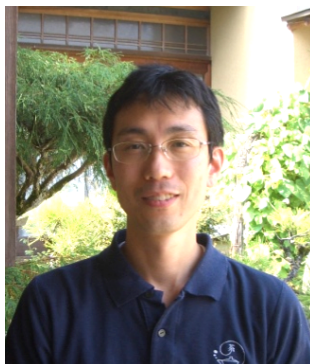
③取組の重点(活用した支援策を含む)

これまで海外への輸出は、台湾やスイス在住の日本人を対象とした小さな取引であったため、貿易実務の知識不足、英語交渉の経験不足だったが、A社社長来日の際に依頼した通訳の方が貿易実務に関する専門家でもあったため、実務の手ほどきを受ける事ができた。また中小機構やJETROの貿易実務アドバイスを通じて、北米有力企業A社へ向けてまとまった数量の輸出が実現し、売上全体に対する輸出割合は2割程度になった。恵まれたパートナーや協力者との出会いが、海外販路拡大の今現在の結果に繋がっている。

また、平成22年2月には、新しい茶葉の開発と販売に対する取組が、近畿経済産業局により農商工等連携事業として認定され、手軽に緑茶を飲みたい国内の消費者への販路拡大や、海外の新たな市場開拓に向けて、積極的に活動している。

④今後の事業展開について

当面はA社との取引を安定的に増やしていく事が目標。現在A社は、米国内随一の店舗数を展開しており、販売力のある海外企業で宇治茶の取り扱いをしていただける事は、大変な光栄で有る半面、これが宇治茶のスタンダードとなりうる可能性もあり、産地を背負う責任の重大さを実感している。“日本の宇治茶を海外の方にも楽しんでもらいたい”という海外展開の理由から、今後も海外のニーズに合った製品提供を目指す。



▲西出 孝 代表取締役



▲宇治田原玉露茶園

(平成24年12月現在)

データ出所: 近畿経済産業局